

実習報告（関係機関実習）

## 「主体的・対話的で深い学び」を可能にする教育課程編成 及び授業改善のための組織づくりの探究

江口 智紀（教育経営探究コース：現職教員）

### 1. 探究実習のテーマ設定理由

現任校は普通科高等学校であり、生徒の大学進学のための指導が熱心に行われている。教職経験が豊富で、教科指導について長けた教員も多く在籍していることや、朝の補習等の課外授業が充実しているということも、高いレベルでの進学指導を可能にしている要因である。

しかし、現任校の分析を通じて、来年度から始まる新教育課程における授業改善が問題として浮かび上がった。特に、新学習指導要領において涵養すべき資質・能力を、授業を通じていかに育成していくのかに関しては、十分に議論されていない状況である。また、新教育課程の実施に併せて、来年度から朝の補習を廃止することも決定しており、その時間に行っていた学習を今後どのような形で保障するのかについても議論の必要性がある。

したがって、今後、新学習指導要領で求められている新しい学力観を基盤にした、主体的に学び続ける生徒を育成するための授業づくりを各教科で議論するとともに、教科を超えて学びあうことで、より質の高い授業を提供できるような仕組みを構築していきたいと考えている。そのために探究実習においては、新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」を可能にする教育課程及び授業改善をより効果的に行うための校内研究のあり方について探究することとした。

### 2. 探究実習の研究目標

#### (1) 佐賀市教育委員会

佐賀市教育委員会が、佐賀市立小中学校における教育を充実させるために果たす役割について学ぶ。また、学校訪問等と同行し、校内研究における具体的な取り組みについて知り、現任校での取り組みにどのようにして生かしていくのかについて考える。さらに、佐賀市教育委員会が主催する研修等を通して、校内研修の具体的な進め方及び学校協働づくりのためのリーダーシップについて学ぶ。

#### (2) 佐賀県教育庁学校教育課

佐賀県教育庁学校教育課が、佐賀県立学校における教育を充実させるために果たす役割について学ぶ。また、各県立学校の特色を生かした教育課程編成及び新学習指導要領における授業実践や研修の在り方について学ぶ。さらに、新学習指導要領における学習評価について学び、現任校における指導・評価のあり方について考える。

### 3. 探究実習の概要

#### (1) 佐賀市教育委員会 8月18日（水）から8月31日（火）の10日間

- ① 佐賀市教育委員会の概要及び業務内容についての研修
- ② 義務制の学校における校内研究における具体的な取り組みについての研修
- ③ 佐賀市教育委員会主催の研修準備及び研修への参加

**(2) 佐賀県教育庁学校教育課** 9月1日（水）から9月14日（火）の10日間

- ① 佐賀県教育庁学校教育課の概要及び業務内容についての研修
- ② 令和4年度佐賀県立学校の教育課程点検作業
- ③ 令和3年度教育課程研究集会オンデマンド視聴

**4. 探究実習の成果と課題**

**(1) 佐賀市教育委員会**

豪雨被害や新型コロナウイルス感染症に関する業務を始め、新学習指導要領に基づいた学習指導の推進等の事業を学校現場と協働しながら進められていることが分かった。また、各小中学校における校内研究の概要について、資料の閲覧や指導主事の講話を通じて知ることができた。小中学校においては、校内研究会の充実が学校運営の鍵であるということ、また、中学校は高等学校と同じように、さまざまな教科・科目の専門家の集団であり、その集団が向かう大まかな方向性を示す研究主題設定の工夫の必要性について認識できた。さらに、佐賀市教育委員会が主催する GIGA スクール構想を基にした ICT 利活用推進のための研修会や管理職研修会の企画等、学校教育の質を向上するための取り組みについてリーダーシップを発揮されていることが分かった。

**(2) 佐賀県教育庁学校教育課**

佐賀県教育庁学校教育課は、義務教育、産業教育、高校教育の3つの部署及びプロジェクトE推進室、生徒指導支援室の2室から構成されており、県立学校における教育活動を様々な側面から支援されていることが分かった。また、令和4年度の教育課程点検作業を通じて、普通科以外にも、様々な専門学科、定時制、通信制、特別支援学校の教育課程について知ることができた。どの学校もその特色に応じて、履修科目の単位数の増減や、学校設定科目の設置、さらには就労体験や資格取得などの学校外での学習活動についての単位認定等、様々な工夫をされており、新しい学習指導要領の理念に基づいた教育課程編成が行われていることが分かった。さらに、令和3年度の教育課程研究集会をオンデマンドで視聴する機会を通じて、新学習指導要領における学習評価について学ぶことができた。今回の学習指導要領では、身に付けるべき資質・能力が、全ての教科・科目間で統一されており、教科・科目の壁を越えて議論することが可能になっていることを再認識できた。

**5. 次年度の学校変革試行実習に向けて**

次年度の学校変革試行実習においては、各教科代表者からなる委員会を中心に、新学習指導要領に基づいた授業改善のための議論を行っていく。佐賀市教育委員会主催の様々な研修会においては、受講者の研修に対する意識や、研修内容に関する背景知識にも差があり、研修内容の伝達の難しさについて改めて考えさせられた。現任校における実習においても、研修内容にとどまらず、研修に参加する職員の置かれている状況やモチベーション等にも配慮し、実践を進めていく必要がある。また、小中学校においては、校内研究が学校組織の中に組み込まれており、実施することが「当たり前」の状況である。そのような文化のない高等学校においては、その必然性を感じてもらうために、現任校の生徒の現状に基づいた問題意識の共有からスタートしなければならない。全職員で問題意識を共有するための方策について今後考えていく必要がある。さらに、今後は県内の他の高校を中心に、新学習指導要領に基づいた授業実践や学習評価の在り方等についての先行事例について情報収集を行うことで、来年度の変革試行実習に備えたい。